



○現在の収容鳥獣と救護状況



ヒナコウモリ

平成22年の10月3日から平成23年3月30日の間にセンターに搬入された野生鳥獣はタヌキ（13）、オオハクチョウ（13）、ドバト（8）、キジバト（5）、ヒヨドリ（5）、カラス（4）、オオタカ（3）、ホオジロ（3）、アブラコウモリ（3）、カモシカ（3）、ニホンジカ（2）、オオミズナギドリ（2）、カルガモ（2）、メジロ（2）、ヤマガラ（2）、ヤマドリ（2）、フクロウ（2）、ノウサギ（2）、ウグイス、ツバメ、ヤブサメ、ツグミ、ハジロ、アオゲラ、ミツユビカモメ、エゾムシクイ、ミサゴ、オオコノハズク、マガモ、ミズナギドリ、オナガ、シマアオジ、オオルリ、マヒワ、コマドリ、ハクセキレイ、ハイタカ、チョウゲンボウ、ヤマセミ、キレンジャク、キジ、ヒナコウモリ、ヤマネ、キツネの計44種58個体でした。

この時期は渡り鳥の移動があり、特に2、3月はオオハクチョウの救護件数が増加しますが、今年は餌付けの自粛や震災の影響で救護個体数がやや少なめでした。冬の間には冬眠中の動物たちがときどき持ち込まれますが、今シーズンはコウモリが4匹、ヤマネが1匹持ち込まれました。自然の中ではそれぞれが

一番居心地のいい巣を選んで冬眠しますが、飼育下では自分で環境を選ぶことができません。それぞれの動物たちの冬眠に適した条件は違います。例えば同じコウモリでもアブラコウモリとヒナコウモリでは冬眠に入る温度が違って、冬眠から覚める時期もずれています。ボランティアの方に預かってもらっていた冬眠コウモリたちも何とか無事に自然の中に帰って行きました。

| 獣類 | |
|---------|---------|
| ホンシュウジカ | オス1、メス1 |
| キツネ | オス1 |
| ノウサギ | オス1 |
| 猛禽類 | |
| トビ | 10 |
| ノスリ | 4 |
| フクロウ | 1 |
| チョウゲンボウ | 2 |
| サシバ | 1 |
| オオコノハズク | 2 |
| その他の鳥類 | |
| オオハクチョウ | 22 |
| コハクチョウ | 1 |
| マガン | 1 |
| ヒシクイ | 1 |

現在収容中の動物



ヤマネ

〇トピックス

12月 センターの一般公開



昨年12月に鳥獣保護センターの一般公開が行われ、たくさんの方々の来場がありました。鳥獣保護センターの動物のほとんどが岩手県内でケガや病気で運び込まれた野生動物で、動物園とは違ってセンターにいる動物たちは治療、リハビリ中のものばかりです。

また、センターでは様々な野生動物の標本も見ることが出来ます。興味のある人は次の公開日をお楽しみに!!



1月 大雪



左の写真は元旦の鳥獣保護センターの様子です。一晩で約60cmの雪が積もり、門扉も半分ほどが埋まっていました。この大雪で何本も木が倒れ、猛禽類の訓練用野外ゲージが倒壊し、放鳥池の橋やフェンスなどに大きな被害が発生しましたが、幸い動物たちには直接の被害はありませんでした。

2月 標本の展示



鳥獣保護センターのすぐ近くにある滝沢森林公園のネイチャーセンターで、鳥獣保護センターで作成した標本の一部が公開されるようになりました。身近な野生動物たちの毛皮や剥製、骨を実際に手にとって観察することができます。展示の内容は定期的に更新される予定です。



3月 センターの改修工事



昨年末から始まっていた飼育施設の改修工事がずいぶん進みました。昭和40年代にキジの養殖施設として作られたこれまでの施設は老朽化してあちこち修繕ばかりでした。今回の工事では新しい屋内訓練ゲージも追加され、「リハビリ待ち」が大幅に改善されるでしょう!!

野生動物ピックアップ

ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*, Japanese black bear)



体毛が黒い中型のクマで、胸に白い三日月型の模様があるのが特徴のツキノワグマです。最近では住宅街にまで出没して問題になるほどなじみの深い野生動物ですが、その取り扱いの難しさから鳥獣保護センターに来場することはめったにありません。

左の写真は事故で無くなった母熊のそばにいたところを保護された、3ヵ月齢前後の幼いオスメス2頭の子熊です。子犬のようでとても可愛らしいですが…、かなりのやんちゃくれで暴れん坊。クマ牧場に行くまでの1日だけ、センターにお泊まりしていただきました。

野生での食性は雑食で、大部分を新芽や果実、クリやドングリ等、旬の植物に頼っています。消化効率はかなり悪く、食べたものの大部分が未消化で排出されるため、クマの出没するリンゴ畑でリンゴジャムのような糞が見つかる事が良くあります。

ツキノワグマはかつてヨーロッパにまで広く分布していましたが、今はアジアの一部地域のみで生息しています。日本国内では大量出没に悩まされている地域もありますが、九州では絶滅、四国でも個

体数がかかなり減少しているなど分布の偏りが見られます。

実は世界的に見て、国内に2種類もの野生のクマが存在し、しかも個体数の調整が必要なほどの頭数がいるという国はととても珍しいんですよ。

クイズ! 僕たちだあれ?!

問題1：謎のホネ



また骨の問題です。今回は特徴の似かよった2種類の動物の頭の骨です。結構鋭い歯を持っているのが特徴です。

鳥獣保護センターに来ることはめったにありませんが、どちらも意外と身近な動物ですよ!

岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただくと折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時15分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガや弱っている鳥獣を見つけたら、まず、ケガや衰弱の具合を見ることが大切です。むやみに手を触れたりせず、元気であればそっとしておいてください。ケガや衰弱のため、動けないようであれば、最寄りの広域振興局、総合支局、地方振興局保健福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守っている場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物やケガ、症状に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで連絡してもらえようお願いします。

○センターの見学や研修、野生鳥獣・標本の貸し出しやボランティア活動などを希望される場合は所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

センターへのアクセス



クイズの答え：

○左の頭骨

答えはニホンノウサギで、発達した前歯が特徴です。日本の北海道と沖縄以外の地域に生息する日本固有種です。ペットで飼われている家ウサギ(アナウサギ)と違って地面に穴を掘りません。

体毛は夏場は茶色、冬は真っ白に変化しますが、耳の先端は黒の縁取りがあります。センターでは冬場は屋内で飼育するためか、写真のような微妙なまだら模様には毛色は変化しません。

落ちていた糞や雪の上の足跡でノウサギの存在が知れますが、姿を見かけることはなかなかありません。春～夏に草むらに隠れている子ウサギが見つかることがあります。そっとしてあげましょう。



○右の頭骨

答えはニホンリスです。発達した門歯がウサギと似ていますが、ウサギはウサギ目、リスはネズミやモモンガ、ムササビ、ヤマネなどと同じげっ歯目に属します。雑食性で、ドングリなどの堅果だけでなく、花や果物、キノコ、虫などなんでも食べます。

公園などで姿を見かけることがよくありますが、けがや病気でセンターに運び込まれてくることはめったにありません。写真のリスは交通事故で保護されたニホンリスで、体臭はゆでたての枝豆のような甘い香りでした。

